

Hitachi Koki News Release

2017年12月1日

日立工機株式会社

お客様の蓄電池情報を一括管理できる 「電池情報管理システム」を本格導入

次世代型コードレス電動工具「マルチボルトシリーズ」のさらなる市場拡大 およびIoTを活用したお客様満足度の向上をめざす

日立工機株式会社(本社:東京都港区、社長執行役員:前原修身)は、本年8月に販売を開始した業界最小・最軽量^{※1}の36Vリチウムイオン電池「マルチボルト蓄電池 BSL 36A18 形」を搭載した次世代型コードレス電動工具「マルチボルトシリーズ」^{※2}のさらなる市場拡大と、IoTを活用したお客様満足度の向上をめざし、蓄電池からさまざまな情報を収集し一括管理できる「電池情報管理システム」の本格導入を開始します。

昨今、蓄電池の進化とともに、コードレス工具の需要が増加し、本体や蓄電池の保守・点検・補修サービスの重要性が増しています。当社は、「マルチボルトシリーズ」の市場投入でさらなるコードレス化を推進しています。当社の蓄電池は、従来から多重保護回路の採用による長寿命でお客様から好評を博していますが、電池を2年保証することで、「マルチボルト蓄電池」の長寿命をお客様に訴求するとともに、早期の市場浸透を図っています。



^{※1} 2017年7月現在当社調べ、国内電動工具メーカー36Vリチウムイオン電池において

^{※2} マルチボルトシリーズは、1kWクラスのパワフルな出力を可能にしたこれまでのコードレス工具の常識を変える蓄電池です。さらにマルチボルトは、当社の従来製品である18V対応のコードレス工具と互換性[※]があり、当該電池を装着するだけで自動的に電圧を切り替える(36V⇄18V)ことができる画期的な新技術(特許出願中)を導入しています

Hitachi Koki News Release

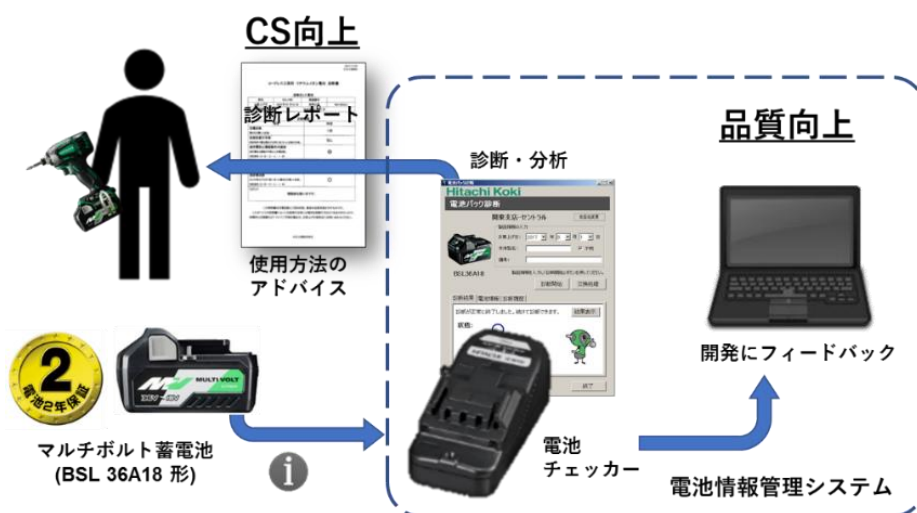
今回導入する蓄電池サポートサービスの主な特徴

①「電池情報管理システム」によるお客様の使用情報の一括管理

全国にある当社修理センターに持ち込まれた製品の蓄電池を、情報を読み取る電池チェッカーにセットすることで「電池情報管理システム」を介してお客様の使用状況やエラー情報などを読み取ります。収集した情報をIoTにより蓄積し一括管理することで、今後の製品開発に活かすことができます。新製品の開発に際して性能アップはもとより、当システムで収集した情報を活用して、お客様にとって使いやすく高耐久・高品質な製品の提供に繋げ、お客様満足度の向上を図ります。

②迅速で的確なアフターフォロー

「電池情報管理システム」で収集した情報から、蓄電池の使用状態の傾向を診断・分析することで、迅速に故障原因を特定し、お客様からご依頼頂いた修理の納期短縮を図ることができます。また、お客様に対して今後の使用方法を的確にアドバイスさせて頂くことも可能となり、お客様に当社の製品を更に長くご愛用頂けるようになります。迅速かつ的確なアフターフォローでお客様満足度のさらなる向上をめざします。



日立工機株式会社の開発担当執行役である高野信宏は、次のように述べています。

「当社は、日本において業界で初めて電池の2年または充電・放電回数1,500回を保証しており、今年で3年目に入るこの保証サービス(2015年8月から開始)は、競合他社との差別化を図る当社だけのアフターサービスです。この「電池情報管理システム」は、お客様の使用情報を一括管理することで、迅速かつ的確なアフターサービスを実現し、お客様の利便性を追求するサービスです。当社は来年10月の新ブランド“HiKOKI(ハイコーキ)”への移行を控え、これからもあらゆる側面でお客様からの信頼、そしてお客様満足度を向上するためのサービスを展開していきます。」

Hitachi Koki

News Release

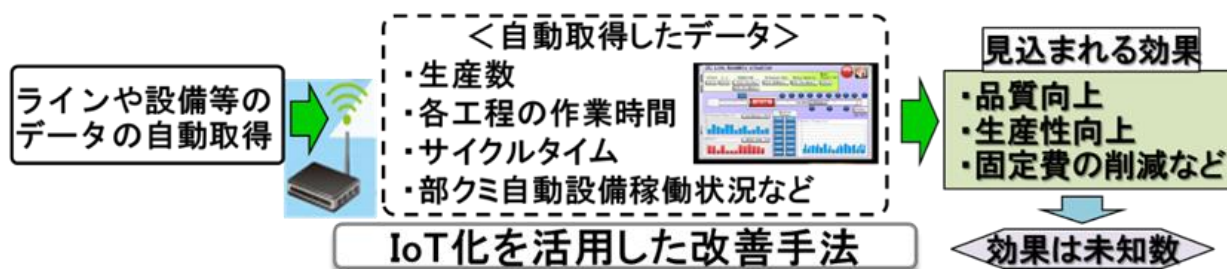
日立工機の IoT を活用したお客様満足度向上への取り組み

生産現場においても IoT を巡る環境が急速に変化するなか、当社「マルチボルト蓄電池」を搭載したインパクトドライバや卓上スライド丸のこを生産している佐和工場（茨城県ひたちなか市）において、生産性の向上をめざして、組み立てラインにセンサを取り付けて生産状況を計測し、IoT を使ってリアルタイムにデータを取得する生産の「見える化」を実施しています。

自動取得したデータはインターネットを通じてクラウド上やサーバ上で一括管理され、社内にて情報共有して効率的な生産を行う仕組みの構築に役立てています。効果の一例を挙げると同工場の主要組み立てラインでは 9 工程を 8 工程に減らし、サイクルタイムも 56 秒から 50 秒に短縮でき、生産効率を 10% アップしました。これにより、製品原価率の低減が図れました。

さらに、当社の海外工場においても、同様に IoT 活用事例を生かすべく「グローバル IoT 導入プロジェクト」を展開しています。既にマレーシア工場では生産状況の「見える化」を完了し、生産効率 15% 向上を目標に効果の刈り取りを開始しました。2019 年度までに全ての海外工場の IoT 化をめざしています。

これからも、IoT を生産ラインだけでなく電力管理や設備保全などにも活用し、2018 年 10 月から生産開始する新ブランド「HiKOKI」製品の生産性向上に努め、コスト競争力の一層の強化を図ってまいります。



Hitachi Koki

News Release

日立工機について

日立工機(2018年6月1日より「工機ホールディングス株式会社」に改称)は、ドライバ、ドリルなど約1,300機種 of 電動工具、刈払機や植木バリカンなどの園芸工具、クリーナーや高圧洗浄機などの家庭用電化製品群及び超遠心機などのライフサイエンス機器を製造販売するリーディングカンパニーの一つです。70年の歴史に裏打ちされた高い信頼性と世界最高水準の技術力を誇り、日本の47都道府県はもとより、欧州、米州、アジア、オセアニア、中近東、アフリカにおよぶ世界95カ国に販売拠点をもち、グローバルに事業を展開しています。社名変更に伴い、電動工具ブランドの「Hitachi Koki」は、2018年10月1日よりブランド名が「HiKOKI(ハイコーキ)」に変わります。ブランド変更について詳しくは、<http://www.hitachi-koki.co.jp/index.html>をご覧ください。

■報道関係者からのお問い合わせ先:

日立工機株式会社 ブランド・コミュニケーション部 広報担当
東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) 〒108-6020
Tel: 03-5783-0601(代表)

日立工機広報代理: ヒル アンド ノウルトン ジャパン 岸、佐藤(優)
Tel: 03-6859-6112(代表)